

## 第2回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和7年3月17日（月） 午後2時～3時30分

会 場：浜松市役所本庁8階 第3委員会室

出席委員：藤井尚子会長、神谷紀彦副会長、中島康弘委員、石田博久委員  
平井明樹夫委員、平出美香委員、村松千香子委員、矢島利充委員

欠席委員：鈴木ヒエン委員

事務局：新谷直幸市民部長、河合多恵子UD・男女共同参画課長、平澤啓樹課長  
補佐、小杉泰司UD推進グループ長、太田俊樹、河嶋美夏

傍聴者：0名

会議録作成者：UD・男女共同参画課 河嶋

記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：無）

---

### 《会議次第》

#### 1 開 会

#### 2 会長あいさつ

#### 3 議 事

- ・令和6年度ユニバーサルデザイン主要事業実績について（経過報告）

#### 4 その他

- ・デジタルUDマップについて

#### 5 閉 会

---

### 《配付資料》

- ・資 料1：令和6年度ユニバーサルデザイン主要事業実績について（経過報告）
- ・資 料2：第6回浜松市ピクトグラム選手権入賞者
- ・資 料3：浜松ユニバーサルデザインマップについて

---

### 《会議の経過》

#### 1 開会

（事務局）

令和6年度第2回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。

当審議会は浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市のユニバーサルデザインの推進に関する調査、協議及び評価をする組織として設置されているものである。本日は、鈴木委員が都合により欠席である。

#### 2 会長あいさつ

藤井会長あいさつ

初出席委員あいさつ  
石田委員あいさつ  
平出委員あいさつ

### 3 議事

#### (事務局)

当審議会は、「浜松市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、公開会議とする。また、会議録の作成については、「浜松市附属機関等の会議録の作成および公開に関する要綱」に基づき、発言した委員の名前を記載し、公開することを了承いただく。

議事の進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条の規定により、議長は会長にお願いする。

#### 「令和6年度ユニバーサルデザイン主要事業実績について」

#### (事務局)

資料1 令和6年度ユニバーサルデザイン主要事業実績（経過報告）

資料2 第6回ピクトグラム選手権入賞者

について説明

#### (事前に提出されている質問1・平井委員)

人材育成について

教育の中にUDの理解を進める取り組みを様々取り入れていることはとても評価できる。ここでの参加者、児童・生徒・教職員がどのような感想や意見を持ったのか具体的な声を示していただきたい。

#### (事務局)

いろいろな声が寄せられているのでそのアンケート結果を講師と共有して次の改善に繋げていく。

#### (事前に提出されている質問2・平井委員)

周知・啓発について

広く市民にUDを周知していく活動が数多く実施されることは重要だと思う。このような展示会への参加者数の評価および参加者の声、そして次回実施へのフィードバック事項などを聞かせてほしい。

**(事務局)**

展示はたくさんやっているがそこに職員を常駐させることがなかなか出来ない。アンケートも実施しているが、多くの回答は得られていない。直接その展示からのフィードバックを得ることは難しいが、様々な事業の中で得られた意見を事業に反映させる努力はしている。一例として研修をやった時、色使いにユニバーサルデザインがあることを初めて知る人がとても多かったので、今年のUD展では印刷会社に協力をいただきカラーユニバーサルデザインの展示を取り入れた。

**(事前に提出されている質問3・平井委員)**

協働事業について

様々な人が一緒に活動することでそれぞれを知る機会になるということは大きな意義がある。そのためには広く告知をしていく必要があるのではないか。告知の方法や課題について聞かせて欲しい。

**(事務局)**

基本的にまず広報はままつに掲載するとともに市のホームページで発信をしている。併せてチラシを作成して関係機関等で配架している。課題として、今は情報が溢れているので紙媒体やデジタル情報の中からどうやって見つけてもらうかということであり、当課だけではなく他のイベントでも挙げられる課題である。今回の例ではUD提案事業の「料理で世界とつながろう」の場合、広報はままつ、市のHP、子育てネットワークぴっぴのHP、国際交流協会（ハイス）のSNSで情報発信をした結果、多彩な国の親子から応募があったと聞いている。

**(矢島委員)**

子どもや教職員の感想は、口頭ではなく書面で提示してもらいたい。今後の変更課題についても書面で欲しい。私たちは審議委員なのでUD課と一緒に来年度のことなど考えていきたいと思っている。

**(事務局)**

アンケートの結果はUD課でまとめて後日資料提供をさせていただく。

**(矢島委員)**

UD学習支援ガイド養成について参加者の男女比、年齢等を知りたい。最終的にガイドに登録した人の累計も併せて知りたい。

**(事務局)**

後日UD学習支援ガイドに参加した方の男女比、年齢も報告する。

**(矢島委員)**

イベント開催の報告はあったが、せめて審議会委員の方にはイベントへの参加を勧めたい。審議会は報告会だけで終わるのではなく来年度はこのようなことも踏まえてお願いしたい。

**(事務局)**

来年度は事前に告知させていただき、審議会委員の皆様にも参加していただけるようにしたい。

**(藤井会長)**

現在活動しているUD学習支援ガイドの大まかな男女比や年齢は今、分かるか。

**(事務局)**

実際に活動しているガイドは30代から70代まで幅広い。男女比は3分の2が女性。

**(平井委員)**

学習支援ガイドの活動は平日のアクト通りでの活動だけなのか。

**(事務局)**

今年度はピクトグラム選手権の表彰式運営に協力いただいた。例年、UD関係の行事で協力していただいている。

**(矢島委員)**

このUD学習支援ガイド養成講座でも今までに登録したガイドが運営側として協力参加をしているのか。

**(事務局)**

協力参加している。こちらのガイド事業は市民リーダーを育成する講座なのでアクト通りだけでなく当課のいろいろな事業に関わってもらっている。今後はさらに人数を増やしていき小学校などで講座の実施を検討している。ガイド養成講座の中には新人ガイドを含め現任研修を一緒に行っている。

**(平井委員)**

UDは思いやりの心を持って相手の立場に立って考えることが大事だと説明があったが、現在の多様性社会の中では相手の言葉や立場が理解できないという事も有り得るのではないか。

**(事務局)**

確かに難しい面もあり、そのようなことも考える時代に来ていると感じている。ただやはり相手を慮る気持ちは非常に大切であるということは重要なものだと捉えているので今後も講座の中では触れていく。

**(平井委員)**

おそらく正解は出ないだろうが常に考えていかななくてはいけない事だと思っている。その姿勢があれば良いと思う。

**(藤井会長)**

ユニバーサルデザインの難しい点は口当たりの良い言葉が多すぎるところにあると思う。しかし現実はそのような事も多く皆さんの経験の中から知恵を絞っていくのが大事ではないかと思う。この審議会がそういう場になれば良いと思うので個人的な経験や気づきも今後いただけるとありがたい。

**(神谷副会長)**

自分たちよりも子供たちのほうが偏見なく世の中がフラットに見えているのではないかと思うことがある。高校生や大学生など若い世代から意見を聞く機会を作っていくのはどうか。

**(事務局)**

毎年の市民アンケートからも若い世代の方がUDへの理解、SDGsや共生社会への理解度は高いと見て取れる。現在大学生ガイドによる学習支援というものが出来ないうちを考えており、今後大学に相談していきたいと思っている。

**(村松委員)**

先程、矢島委員より提案事業の実施成果や参加者アンケートを審議会にも共有してほしいとの要望があったが、提案事業を受託した者として報告書やアンケート結果や写真はすべて市に提出しているの、それを活用していただければよい。

**(中島委員)**

市民団体や市の職員がやる出前講座は趣旨がきちんと伝わって指導されていると思うが、学校の教員が指導する場合、その理解の啓発などの研修はやっているのか。

**(事務局)**

研修はやっているが新任教職員研修のみなので、意識をどこまで持ってやっているかは把握していない。

(矢島委員)

石田委員に質問。私たち障がい者は遠鉄さんにはいろいろご協力いただいている。貴社はUDやバリアフリーなどの研修は社員全員が行っているのか。

(石田委員)

鉄道などの現場に携わっている者については行っているが、全社員に対しては現状出来ていない。

(矢島委員)

バスの運転手が車椅子を乗せてくれるのは感謝している。

(石田委員)

バスの乗務員については、車椅子を乗せる訓練を入社したら全員出来るようにしている。

先ほど弁天島駅がバリアフリーになっていないという話があったが、弊社も出来ていないところがあり、今後浜松市にもご協力いただいてがんばっていかなくてはいけないと思った。

(藤井会長)

いろいろなご指摘があったが審議については以上とする。  
令和6年度ユニバーサルデザイン主要事業実績については了承とする。

#### 4 その他 デジタルUDマップについて

(事務局)

浜松ユニバーサルデザインマップについて説明と協力依頼

(矢島委員)

マップはもう見たが課題が多い。UD課としてメディアユニバーサルデザインガイドというものはあるのか。

(事務局)

ある。

(矢島委員)

これはどんな意図で作ったのか。浜松市メディアユニバーサルデザインは目の見えない人だけの物であり、全ての障害の方への情報伝達が必要だ。これはどうしてなのか。

**(事務局)**

このメディアユニバーサルデザインガイドは視覚障害だけを対象にしているのではなく、一般の方、高齢者、子ども、外国人に対する配慮も掲載されている。

**(石田委員)**

このマップの事業の実証実験の期間はいつまでか。

**(事務局)**

昨年の10月から始まっていて今年の9月までが実施期間となっている。公共施設だけは情報が入っている。

**(石田委員)**

半年後の実証実験がうまくいけばその後は継続されるのか。

**(事務局)**

継続したいと考えている。

**(村松委員)**

最終的には情報量だと思うが、アプリでの運用などを考えているか。

**(事務局)**

検証結果次第だが利用しやすい運用方法を検討していく。

**(村松委員)**

UDマップということなので背景や文字の大きさなどのデザインもUDを意識して欲しい。

**(平井委員)**

このUDマップのターゲットはどのような人たちか。様々な障害を持つ方でも目的が探せる選択肢が必要だと思う。

**(事務局)**

今回は実証実験であり情報を享受できる形である。今後さまざまな方が目的を探る選択肢を検討したい。

**(平井委員)**

実証実験ではAI活用などの可能性も含めて積極的にやってほしい。

新谷部長あいさつ

5 閉会